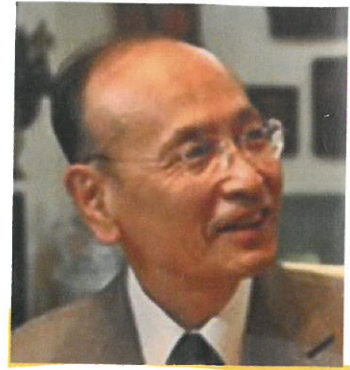


日本の生きる道は 『憲法九条を実行する道』

ウクライナ問題にどう対処するか？

私たちの平和主義の内実が問われます



憲法集会が柏市民文化会館で開催され孫崎さんのお話を聞くことが出来ました(2022年5月5日)。

孫崎さんは「日本の生きる道は憲法を実現すること。特に九条を実現する道だ」と指摘し、同時に「今の日本の状況はこの平和への道が危機的状況だ」と問題提起しました。

世論調査では憲法改正に賛成は44%で反対が31%。今こそ憲法を活かしていくことが日本の生きていく道だというのに……このような流れの中に「ウクライナ問題」があると分析。

ロシアへの糾弾と制裁一色でいいのか？

“ウクライナ問題を契機に憲法を変えようとしている”大きな流れが出てきているのは、ウクライナ問題への対応に誤りがあるのでは？と問題提起し、それは「ロシアへの糾弾と制裁一色になっている現象」にその問題点があると指摘しました。

日本国憲法の戦争放棄は幣原氏の提案から作られているといった歴史的事実。70数年前に起こった戦争が起こる前にどれだけの人が「おかしい」と発言したか？ひとつの流れができてくるとザート一緒にいってしまう日本国民の弱さなどを示し、

まさにひとつの流れの中に流され、立ち止まれない状況が今日の状況と批判しました。

「民主主義とは？国会とは何なのでしょう？」と疑問を投げかけ、「それはさまざまな意見の中で議論しひとつの政策を作っていくことであります。」「最初からこれで行くんだ、なら大政翼賛会そのものだ」と。

ではウクライナへのロシアの軍事侵攻の問題で”糾弾・制裁“一色になってるが果たしてウクライナ事情を十分知っているのだろうか？(マスコミは知らせているか？)

国会はゼレンスキーを呼んでその演説にスタンディングオベーションをしたが、プーチンが何を言ってるのかプーチンの意見を聞いて両方の意見を聞いたうえで自分で判断することを何故日本の国会は出来なかったのか？異なっても相手の意見を聞く、それが民主主義の根本なのは……「平和を維持し軍事に係わらない平和にするには、平和的手段で平和を作る努力をしなければならないのです」と現状への課題を指摘。

「プーチンが悪だ」というならプーチンが何を言ってるのか知ってますか？侵攻する前日2/23 プーチンが何を言っていたかを知ってる人は？と会場に問い、「どうしてそれを見聞き自分で判断しようとししないのか？」と訴えました。事実関係、両者の意見を知って判断するのはなくロシアへの糾弾と制裁だけを言ってる状況は危険だと語りました。

ウクライナ・ロシアの状況と歴史

そしてウクライナとロシアの状況・歴史等について具体的に語りました。

まず、米国のキッシンジャー氏のウクライナ分析を示しました。「ウクライナが生き残り繁栄するにはいずれかに対峙して一方につくべきではない。両者のブリッジとして機能すべき。」「ウクライナの西部はカソリック・ウクライナ語、東部はロシア正教・ロシア語。多国語

的構成の国ゆえに一方が他方を圧倒すれば分裂・内乱になる」と。

残念なことにウクライナではロシア語を使っている東部でも公用語はウクライナ語にしてしまい、ロシア語住民は官庁に勤めることが出来ません。一方が他方を排除するなど西部・東部の対立・軍事衝突になったのだ。この東部を支援しているのがロシアプーチンなのです。《国連憲章第一条:民族自決権》

NATO の東方拡大について:ドイツの東西統一時 1990 年、米国はかつてのドイツナチスを心配するソ連ゴルバチョフに対し「東西ドイツが統一しても心配しなくてもいい。ドイツは NATO に入れ、すき勝手に動かさない。NATO は 1 インチたりとも東方拡大しない」と約束していたのです。

米国のキッシンジャーもケナンも「NATO は東方拡大すべきでない、特にウクライナへはすべきでない」と。

だからプーチンは 2/23 に「裏切られてきた。・・・だから行動」と言ったのですとこの間の状況を説明しました。

2/24 ロシアの軍事侵攻以降日本中が「ロシアを糾弾し制裁しロシアを徹底的にやっつける」の状況だが、日本国中がこれまでのウクライナ・ロシア・NATO・米国の関係過程をあまりにも知らなさすぎる」と。

そして平和的に解決するには『①ウクライナに NATO を拡大しない②東部地区の民族の自治は選挙で決定』を提示すれば良いのだと提言。

日本の政治家でこのような平和的解決の道を追求めたものがない。リベラル勢力からも提言されていない。「平和な国を作りたいなら 9 条を活かして生きていきたいなら世界のいろいろな紛争に対して平和的手段を追求めすべき」とやらなければならないことを指摘しました。

一極集中の破綻

孫崎さんは広く世界状況についても分析しました。

“世界は大きな変化が起こっている”。世界の中心はアメリカの一極集中ではなくなりつつあると。

経済的にも実質的 GDP はすでに中国が 1 位でアメリカは 2 位。先進国 G7 の経済合計よりも非 G7 の 7 カ国(中国・インド・インドネシアなど)の GDP 合計のほうが大きくなっており、アメリカの経済力は 4 分の 1 でしかない。

しかも G20 の主催国インドネシアは米国の「プーチンロシアをはずせ」の圧力に屈せず「プーチンもゼレンスキーも両方とも参加させよう」と主張。

経済的にも政治的にももうアメリカ一極集中ではなくなっていること。糾弾と制裁のみが世界の主流ではないことなど世界の情勢を説明しました。

経済制裁がだめなら軍事で・・・

「でも、何かが変わり始めている中私達は大きな曲がり角に来ている。その中に非常に危険なものはいっている。」だから「ウクライナの意見だけでなくロシアの意見も聞くべきです。ロシアを追い出してもピリオドにはならない。ロシアでボタンを押せばアメリカは消滅してしまうのです」「かつて冷戦時代でも敵と何とか同じ方向へと努力したのです。」

「ほんとうに 9 条を守り平和な生き方を取るなら平和的手段を最後まで追求めべき。」と繰り返し訴えました。

「しかるに平和的手段を追求めず糾弾と制裁一色です。」「経済制裁してもあまり効果がない。・・・とならば軍事でやろう(武器をどんどんウクライナに送りウクライナ人に戦わせ

よう)という雰囲気が広まっている。この状況でよいのなら自民党と米国でやっていくのが一番よいこととなります。(リベラル野党には票を入れない)。「だから憲法を改めてもよいという国になりつつあるのでしょうか。」と日本の現状を分析し説明しました。

孫崎さんはウクライナの問題を更に突っ込んで解説しました。

ウクライナ戦争の本質は米国とロシアの戦い

「ウクライナ問題は米軍(米製武器)対ロシア軍です」「米国のジャベリン・ステインガー・サムライドローン等米国製の兵器がロシア軍に勝っている。戦うのはウクライナ兵とロシア兵。戦場はウクライナ。米軍は戦わない」これが現実の姿ですと。

孫崎さん言ってます「ウクライナ国民のことを考えるならウクライナ大統領は東部に自治権を与え、NATO はウクライナに拡大しないというロシアの言い分を聞いて収束させるべきなのでは・・・」と。

「みんなで軍備・兵器を送って戦いを継続していく。そしてロシアが崩壊していくというのも一つの選択肢かもしれないが、平和を愛するなら人々の命を重視する政策は違うのでは・・・」と訴えました。

ウクライナと同じ構図が東アジアにも

そして“ウクライナ兵とロシア兵が戦い、戦場はウクライナ、米軍は出てこない”の構図が東アジアでも行われようとしていると指摘し、尖閣、台湾有事問題について説明しました。

安倍元首相(日本維新の会も)は『核共有論』を言うが核を日本から撃つのであって撃ち返されたら日本はなくなる。(米国本土は大丈夫です)

適基地攻撃能力を持って日本から中国に撃っても2~3発、中国は1200発の中距離ミサイルを持っているのでこんな戦争をやろうとする「有識者会議」はまったくおかしいと批判しました。

中国との北朝鮮との課題の解決方法も示しました。

北朝鮮に対してはキッシンジャーも言うように『北朝鮮のような核中小国は先に撃ったらみづからの国が撃ちかえされ消滅してしまう。だから指導者・国の体制を軍事で破壊するようなことはしないと約束』すれば平和的な解決の道が探りだせると。

尖閣問題はポツダム宣言にのっとり、しかも日中共同声明時の周・田中合意である『棚上げ』が最も日本にとって有利な方法だ。日中漁業協定もあるのだから民主党政権時のように日本が火をつけようとしなければ平和的解決方法を探りだせると。

台湾問題、尖閣問題、ウクライナ問題それぞれ外交的解決の道筋を取るべきと、そのための視点を示しました。

ウクライナ問題は1990年のNATO不拡大への反故が続いている。2014・15年のミンスク合意が守られていないといった歴史的事実から・・・

台湾問題は日中共同声明・日中平和友好条約にもあるように「台湾独立と二つの中国の立場はとっていない。ひとつの中国を了承している。」米中国交回復時も同じように「ひとつの中国」ということを今反故にしようとしている・・・

これらの歴史的事実関係から平和的手段で平和的解決の道を探るべきと解決への視点を示しました。

質疑応答の中で孫崎さんは更に深く問題を掘り下げました。

Q、日本に他国が攻めてきたらどうするの？イラクは核を持っていなかったから攻められたのではないですか？

答え:外交的紛争がなければ攻めてこない。攻める前に対立があるから攻められるのであって対立を外交的に解決しておけばよいのです。尖閣の問題も北朝鮮の問題も台湾の問題も外交的事案として処理すればよいのです。

Q、ウクライナの戦争は収束しますか？

答え:終わらない、継続していくでしょう。米国が戦争を続けたいと思っているようです。ウクライナ戦争(ロシアの軍事侵攻)によって冷戦後のヨーロッパにおける平和の配当はなくなり、軍備増強・戦争をしていく国々に変わってきた。ドイツは米国の要求する軍事費GDP2%に。他の国々も軍事費拡大・・・これは米国の兵器が多く売れることになります。「米国によるヨーロッパへの支配」「米国の兵器の販売」と米国が望むかたちに、東部での戦争の継続、ウクライナ戦争の長期化によって実現されるのです。

孫崎さんの話から「平和を愛し平和な国家を作ろうと努力をし、平和的な手段で平和的に外交で処理していくためには民主主義の基本である異なる人の意見をきちんと聞く両方ともに聞き見てみづから判断することの大切さ」が分かりました。ウクライナの戦争(ロシア軍の侵攻、米国・NATO 拡大)にどう対処するかといった具体的行動の中に平和への道筋が見えてくるのでしよう。

*孫崎さんはロシアの軍事侵攻が良いとは一言も言ってないし、いろいろな場で「武力行使を排し、即時撤退しなければならない」といっているが、同時に「日本の今日の世論、政治家から官僚、メディアが一億総プーチン批判・総制裁を展開していることに危惧を持っている。プーチン批判をしないから職を外すという動きまで出てきていることに危惧する」と現状の問題点を指摘しているのです。

*2月28日英国のガーディアン紙は「多くがNATOの拡大は戦争になると警告した。それが無視された。われわれは今米国の傲慢さの対価を払わされている」とのタイトルの下「ロシアのウクライナ攻撃は侵略行為であり最近の展開でプーチンは主要な責任を負う。」「だがNATOのロシアに対する傲慢な聞く耳持たぬとの対ロシア政策が同等の責任を負う」と記載。

「平和は武力でつぐれない」「今こそ日本国憲法(9条)は旬です」実現しましょう!

***「民主主義と自治そして平和主義」藤代政夫 047-445-9144**